

# 堅実な生き方、柔軟な発想得る

越野運送（大阪市都島区）

社長 越野 泰弘

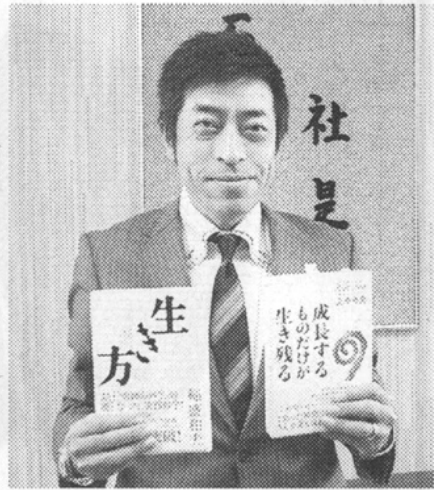
人には様々な生き方がある。稲盛和夫著『生き方』（サンマーク出版刊）を読んで一番強く感じたのは、「経営者としてこれほど高潔で立派な生き方があるのか」ということだ。

「夢の実現を強く思い続けた者だけにチャンスが来る」という持論は、困難といわれた企業の再建に実際に成功している稲盛氏の言葉だけに非常に重みがある。「ビジネスの原点は利他と感謝にある」とする考えも、当社の社である「百忍百謝」にもつながるので、非常に親近感を覚えた。

生き様に理想の経営者像を見ると共に、繰り返し強調される労働の尊さを、今や多くの日本人が忘れているのではないかと考えさせられた。

上原春男著『成長するものだけが生き残る』（同）は、科学者である著者の理路整然とした成長の原理が明快で分かりやすかった。

クリーンエネルギーとして注目を集める海洋温度差発電に早くから着目し、世界的権威となった同氏は、成長の原理として①創造と忍耐②成



長限界③並列進行④条件適応⑤分離と再結合——を挙げる。そして、柔軟な発想の重要性を強調すると同時に、成長の根源は心地良さにあると説く。

ビジネスの現場では顧客満足度（CS）が重視されるが、それだけでなく、従業員を気持ちよく働かせてこそ成長が生まれるという発想はユニークだ。顧客のことは考えても、従業員の視点に立つことの少ない経営者には、はっとさせられる言葉である。

経営者は常に孤独であり、「師匠」を持つことが難しい。私にとって本を読むことは、人生の先輩に教えるを請うことであり、成長の糧を得るための貴重な行為。

稲盛氏から堅実な生き方、上原氏からは柔軟な発想を学ばせてもらった。

## 従業員は気持ちよく働かせてこそ成長